

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3373500309		
法人名	有限会社スピリッツ		
事業所名	グループホーム 淳厚苑		
所在地	岡山県津山市加茂町塔中105		
自己評価作成日	令和 6 年 1 月 25 日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・家庭的な雰囲気の中で、個人個人のペースで生活ができ、安心して過ごすことができるように支援しています。
・利用者も職員も自分のしたい事は出来る場であり、家族同様の生活ができています。
・病院が同一敷地内にある為、連携を図りながら健康管理に努めています。
・季節を感じる事が出来るよう、旬の食材を使って料理をしたり、一緒に壁面飾りを作ったり、季節の行事を行っています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3373500309-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井2丁目2-18
訪問調査日	令和 5 年 2 月 7 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者は職員・利用者、さらには地域の人々とのコミュニケーションを大切にしている。不穩になられる方へは、安堵感を与え、居室で時間をかけて納得して頂くまで話をしている。実家でひ孫の誕生日をお祝いをしたリハビリを励んでいる利用者に対して、安全に過ごせるように見守り、また、職員から居室のカーテンが古くなったので、新調してはの意見にも利用者にも色や柄を選んで頂き、心も見た目も晴れ渡るようにしたいと明るい色を選ばれ目頭が緩んだ。前回の評価結果を受けて、地域との交流が疎遠にならないように、野菜を購入している農家から小豆の選別をして欲しいとお願いがあり、小豆の良し悪しをしていたら、今度は大中小の3種類に分けて欲しいと言われ、利用者は上手な手捌きで選別し、それを昔取った杵柄のようにいとも簡単に職員に教える姿がなんとも微笑ましかった。内玄関の扉を開けると、利用者は手を挙げて「よっ」と温かく笑顔で挨拶を交わして出迎えてくれ二度目の微笑みがでた。リビングでは、利用者は洗濯物畳みや季節の歌を熱唱していて、食事の問いかけにも「食事は美味しい」、「生活は楽しい」と答えてくれ、理念の通り「真心で家族の味わい」を目の当たりにした施設であった。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・入口に手作り理念を掲げ、理念に近づけるよう日頃から話し合いを行い実践している。	「真心で家族の味わい」と書かれた理念を事務所前に掲示している。利用者と一緒に布を使って手作りした物を掲げ、申し送りの際に唱和している。居室担当と個人目標を新たに追加して、「思い遣り」や「真心」の文字が並び、理念が浸透している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・地域の文化祭や敬老会を通じて地域との交流を行っている。 ・地産地消への協力として地域農家さんより1週間に1回野菜を購入させていただいている。	地産地消を目指していて、地域の農家から野菜を購入している。農家より小豆の選別の依頼があり、利用者は昔を思い出しながら、選別を上手に行っている。中学生ボランティアの受け入れも行っていて、施設内で運動会を開催し、パン食い競争や玉入れを一緒に楽しんだ。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・毎年6月に中学生の職場体験の機会を設け、利用者の方との交流や支援の方法を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・利用者、利用者家族、市の職員、地域関係者に参加していただき活動内容や意見交換を行っている。	高齢介護課、森林組合長、地域代表、利用者家族、利用者、特定施設の統括、GHの管理者が参加している。前回の評価結果を受けて、参加メンバーが増員された。直近では、入居者情報、行事報告、感染症、消防訓練の報告、身体拘束について話し合いを行った。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・市とは通知等で不明な点があれば、連絡を取り確認と指導を受けている。 ・感染症発生時の対応方法について相談を行った。	統括管理者・事業所管理者が窓口となっていて、市町村との連携を行っている。運営推進会議の際に、他事業所と情報交換をして、施設で活かしている。書類提出がある際には、直接役場へ出向き、顔を合わせる関係を形成している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・玄関は常に解放し、いつでも行き来できるようにしている。 ・職員研修を行い、理解を深めている。	身体拘束検討会では、事例を参考にしている。職員からは多くの意見が上がり、情報の共有ができています。安全を優先して行動制限をしていないか、スピーチロックになっていないか等の確認ができた。日中は玄関の施錠はしておらず、行き来は自由となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・身体観察をし、変化に気付く目を持ち、勉強会で話し合い、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・重度化に伴い、次のサービス利用につなげるよう支援している。 ・施設内研修で権利擁護について学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・個別での説明をしている。不安や疑問等をお聞きしご理解を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・利用者、家族の意見は会議や申し送りをし、記録に入れながら全員に伝えて反映させている。	面会は玄関先で対面で実施できている。遠方の方とは何かあった際には、必ず連絡をするようにしている。利用者からリハビリを増やしてほしいと要望が上がり、廊下の歩行や椅子からの立ち上がり訓練を増やした。ちらし寿司が食べたいと言った利用者へは、節分で提供したら喜んで頂けた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・毎月一回の職員会議(全員参加)や毎日のミーティングで気付いた点や意見を聞き、話し合っ即反映させている。	職歴の長い職員が多いので、意見が言いやすく仲も良い。日頃の業務中にも意見が飛び交っている。物品もあるものを大切に使うことを心掛け、修繕して長持ちするように努めている。職員からの意見で、居室のカーテンが古かったので、利用者の好きな色に新調したら、心も居室も明るくなった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・毎年契約時に各人面接を行い、意見を話し合い、働きやすい職場にしている。 ・交付金の支給により職員のやりがいを見つける。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・資格取得に向け情報提供したり勉強の仕方を協力している。 ・実践の中にアドバイスを入れながら実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・地域事業者の参加する研修に参加し、職員会議にて実践し、質の向上を目指している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入所した時は特に不安であり色々な症状がみられる。出来るだけ1対1で対応し、一人ではないという事に気付いてもらい、信頼を得るように努めている。 ・そばに寄り添い話を聞くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・入居申し込み時や、手続き時に家族の思いや要望を聞き、相談しながら関係づくりをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・困っていることを優先しながらその時必要としている支援は何かを考えるようにしている。必要に応じ他のサービスの利用も検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・暮らしの中で、出来ることをして協力し合える関係を保っている。(片付け、掃除、洗濯たたみ、料理手伝い等) ・生活の中で色々教えてもらう事もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・家族と連携を取りながら、一緒に本人を支えて行ける関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・感染症の状況により、短時間での面会をお願いしている場合もあるが電話をしたり関係が途切れないよう支援している。	面会は玄関先で対面で実施できている。90年前からの付き合いのある知り合いの方が、シニアカーに乗って会いに来てくれた。昔の職場の方からは電話が掛かってきて「元気にしている、欲しいものはない」とのやり取りがあった。お墓参りに行ったり、実家に帰ってゆっくり過ごした方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・職員が間に入り、利用者同士が楽しく過ごせるよう支援している。 ・会話しやすい雰囲気作りや、テーブルの席などを工夫している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・退去後に入所された施設と連携を図り、当施設での様子や対応方法を伝えている。ご家族にも相談等あればいつでも連絡をして欲しいと伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・何回も繰り返し話をしたり、困難な場合は顔の表情や体の動きを見て把握している。 ・一人ずつ時間をかけて、会話ができるようにしている。	管理者や職員は、利用者とのコミュニケーションを第一に考えている。不穏になられた方とは、居室で時間をかけて話をして信頼関係を築いている。利用者から「ちょっと話があります」と呼ばれることもしばしば。利用者に寄り添う姿勢を大切に、できるだけ要望を叶えられるように配慮している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・利用者との会話、面会者や家族からの聞き取りや担当だったケアマネージャーさんから話を聞き把握している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の申し送り、毎月の職員会議、日誌、個人記録等により把握している。 ・全員が確認ノートに確認印を押している。 		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<ul style="list-style-type: none"> ・本人、家族の思いや意向を取り入れている。 ・毎月一回の会議や日々職員間で話し合い作成している。 	<p>入居時に暫定プランを作成し、何もなければ1年毎に見直している。月1回の職員会議にて、カンファレンスを行い、意見交換をしている。リハビリを増やしたり、食事形態の変更を考えたりした。モニタリングは6ヶ月毎に見直しをしている。本人の要望を聞き、「一緒にプランを作っていく」ことを大切にしていると管理者は語ってくれた。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・できること、出来ないことが日々変わる事があるが、小さな変化を見つけ、計画を変えている。 ・個人記録や申し送りノートを使用し共有している。 		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・外出したいときには外出したり、その時その時を大切に臨機応変に対応している。 		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・地域文化祭へ見学に行き交流を深めている。 ・野菜の選別など地域農家さんの協力をしている。 		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・病院が同一敷地内にある為、急変時や小さな変化も即対応できる。 ・専門科(精神科)受診も継続し、季節時変化に対応できるよう支援。 ・家族希望で独自受診を支援する。 	<p>同じ建物の1階にかかりつけの内科があり、連携が取れている。週に1度は内科から看護師が来所されるが、緊急時には夜間であっても、時間を問わず来所され、状況確認も行われている。訪問歯科は必要に応じて来て頂ける。整形外科が近くにあるので、何かあれば受診に行く。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・同一敷地内に病院があるので、迅速、適切な対応が可能である。 ・週に1回、看護師の訪問があるので、体調変化や気づきなどを報告している。 		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・病院初診については家族に様子を伝え、付き添ってもらう。(利用者の状態は書面で渡す) ・家族との話し合いの機会を設けている。 		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・状態に応じて、利用者や家族と話し合いを行っている。 ・看取りについても医師との相談の上応じている。 	看取りは可能だが、ここ数年はなかった。入居時に「看取りに関する指針」にて説明し、同意を得ている。重度化した際には、再度本人や家族と相談して、ドクターからも話をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	<ul style="list-style-type: none"> ・施設内研修において、急変時や事故発生時の勉強の時間を作っている。 		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	<ul style="list-style-type: none"> ・年に1回、総合訓練を実施している。職員会議において即対応できるように訓練している。 ・土砂災害、地震時の対応も考え意識づけをしている。 ・防災頭巾をリビングに常備している。 	年2回、夜想定で火災訓練を実施していて、利用者も一緒に避難することができた。探知機が誤作動で鳴った際には、消防までの通報や利用者対応もほぼ完璧で、日頃の災害意識の高さが窺えた。備蓄は、食料を倉庫に保管している。期間近の物は、食事で提供しフードロスなくしている。	災害対策について今一度見直してみてもいかがでしょうか。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・自然体で、家族のようにその人に合わせて馴染みの会話で対応している。 ・言葉かけや対応には注意を払っている。 	呼称は苗字に「さん」を付けて呼んでいる。反応がいい場合には、下の名前に「さん」付けて呼ぶ場合もある。居室の扉には消防法を考慮した上で、手作りカーテンを掲げていて、プライバシーに配慮している。排泄失敗時には、耳元でさりげなく言葉掛けをして、周りに気づかれぬように配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・日頃の会話の中で、本人の思いや希望を確認している。 ・会話を大切にし、表情や顔色を見ながら自己決定を出来るようにする。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・日課にとらわれることなく本人の希望通り付き、外出等支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・今までも使ってきた物、好みの物を持ってきてもらうようにしている。 ・入浴前には、一緒に準備を行い好みの物を着るようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・旬の食材を取り入れている。 ・野菜の皮をむいたり、切ったり一緒に下準備を行っている。 ・誕生日の方には好きな物を聞き、食べたい物を提供している。	食材は業者から届き、3食手作り。地域の農家から新鮮な野菜が届けられる。3時のおやつは、職員がドーナツやホットケーキを手作りをしている。クリスマスには、ケーキのデコレーションを利用者にして頂き、喜んで食していた。行事の際には、ちらし寿司が好評でバイキング形式で楽しんで頂くこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・野菜中心に栄養バランスを考えている。 ・水分がとりにくい方には、声掛けや味を変えるなど工夫し、必要な量がとれるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後、声掛けをしている。出来ない方には介助し、出来る方には準備をして見守っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・チェック表にてパターンを共有し、利用者の力を活かし、トイレでの排泄に向け支援している。	トイレは3ヶ所ある。日中はなるべく自分でトイレへ行って頂けるように誘導している。布パンツで過ごされている方も2名いて、夜間のみPTトイレを使用している方もいる。オムツだった方が機能改善していき、リハパンにまで回復した事例もある。男性の方で立位で用を足される方もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・2日に1回の排便を目指し野菜中心に食事を出し、食前には運動をするよう支援している。 ・必要な水分量がとれるよう声掛けしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・足浴、シャワー浴、清拭等、希望に応じて支援している。 ・本人の了解を得て、曜日を決めて伝えているが、希望により変更することもある。	入浴は決まった曜日で週2回。平均30分くらいとゆっくりとした時間設定にしている。利用者から入りたいと要望が上がれば、対応している。入浴を拒否される方へは、職員と一緒に入ることを提案し、温度の確認もしている。季節湯として、ゆず湯の提供もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・生活リズムを崩さないようにしながら休む時間を作り(昼)、安心して眠れるよう電気や冷暖房に注意し支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・職員全員が理解できるように変化時には、申し送りや記録をし、理解して薬の管理が出来るようにしている。 ・日々バイタルチェックをし、変化の確認をしながら支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・好きな事、やってきた事、やりたい事が行えるように声掛けや、企画を行っている。 ・誕生日には好きな物をリクエストできる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・新緑、紅葉など天候に左右されるものは、タイミングを逃さないよう実施している。希望によって、散歩・ドライブへ出かけている。	近隣の散歩や図書館で本を借りている。感染状況をみながら、外泊も可能としていて、ひ孫の誕生日に実家に帰った方もいる。施設内では、廊下の歩行やレクリエーション活動を行っている。利用者の間では、トランプが流行し、7並べやババ抜きが人気を博している。生け花や裁縫も利用者の楽しみの一つとなっている。	今から外出に向けて準備をしたり、施設内でできることを模索してみたいかでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・買い物をしたい方は、家族にお願いしたり職員が代行している。 ・買い物の支払いについては基本的には施設が立替えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・いつでも電話をしても良い事を説明している。本人が希望される時には電話にて話をして頂いている。 ・携帯電話を持参される方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・玄関やリビングなどに手作りした作品を展示したり、季節を感じることでできる物を置いて居心地良く過ごせるような工夫をしている。	廊下には、毎年十二支の作品を飾っていて歴史が感じられる。日中はリビングで過ごされる方が多く、週刊誌や新聞を読んでいる。カラオケが好きな利用者が多く、毎月季節を感じられる歌の歌詞が貼られている。洗濯物量や小豆の選別をして楽しそうに過ごしていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・食堂の座席は、利用者の状態に応じて席替えを行っている。 ・ソファーでは一人でテレビを観たり、気の合った利用者同士で話をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・持ち込み自由であり、使い慣れたものを持ち込んでいただき、安心できるようにしている。 ・家族の写真飾っている方もいる。	備え付けは、ベッド、エアコン、ヘッドライト、押し入れ、床頭台。遺影を持ち込み、毎日お供えをして、家族に1日の報告をしている方もいる。ひ孫の写真とプレゼントされた絵やを自分で塗った作品を大切に飾っている。娘からプレゼントされたカーネーションの造花が輝いていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・各部屋には花の名前のプレートがついているが、わかりやすくなるように、表札や目印になるものを付けている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				